

福井県衛生環境研究センター活動報告 概要

発表演題名	福井県におけるA群ロタウイルスの分子疫学的解析
発表雑誌名	北陸公衆衛生学会誌
発表者名	保健衛生部 小和田和誠
発表日	令和 6年 3月
発表内容	A 群ロタウイルス（RVA）は、主に糞口感染により下痢、嘔吐等の胃腸炎症状を引き起こす。近年は予防対策が重要視されており、ワクチンの定期接種が開始されている。これまでの当センターの感染症発生動向調査等の検査においては、RVA は多く検出されてきた。そこで、福井県内の RVA の流行状況の把握を試みた。 2012年4月から2022年3月までの間に県内の医療機関等で採取され、RVA を検出した胃腸炎患者の糞便検体 94 検体について、VP7（G 型）および VP4（P 型）の遺伝子解析を実施した。その結果、年ごとに流行する遺伝子型や系統が異なる傾向が見られた。2012年と2016年はG1P[8]、2013年と2017年はG2P[4]、2014年と2019年はG9P[8]、2015年はG3P[8]、2019年はG8P[8] が最も多かった。 2020年以降は RVA がほとんど検出されず、基幹定点医療機関からの報告も無くなった。コロナ禍や定期接種化による影響など、現状では検証が困難であり、今後も引き続き発生動向を調査することは重要と考える。